



論 說

國土計畫に於ける動態的要因

奥井復太郎

國土計畫が一つの形態的構成である事は殊更に云ふまでもなからう。國土といふ空間に點と線と空間とより成る構圖を吾々は眼前に持つ。此の形態的構成は、勿論單に平面的では無い。陸上、海上の兩空間と共に吾々は第三の空間として空中を考へる事が出来る。同時に海中も考へる事が出来る。つまり吾々の考へ得る形態的構成は一つの立體構圖となつて具現される。

此の構圖に於いて空間(地域)と點と線との關係は不可分である。例へば日獨伊三國同盟は日本帝國獨逸國伊太利國それぞれの空間を持つてゐるが、之れを東京、伯林、羅馬といふ點を以つて示す事が

出來ると同時に此の三點を連ねる線を以つて表現すれば、之れが所謂樞軸である。同様に日滿支に連らなる國土計畫と云へば日本本土を斜に長く延びた中心空間として、北方に滿蒙、西に支那、更に南に南洋といふ空間を配置せしめ、若し點を以つて表現するならば、東京、新京、南京又は上海、サイゴン、バンコック、パタビヤとなり、是等の諸點を連ねて所謂新東亞樞軸が成立するワケである。

日本國土計畫を中心として考へると、かゝる構圖は、勿論、之れに對應する政治經濟の新編制を持つに相違ない。否、持たねばならない。それが高度國防國家の體制に外ならない。此の新體制の元が國家及び國民生活の全般が新しく編成されると共に、之れに應ふる可く新編成を必要とせらるゝのが國土利用そのものである。國土計畫が國土利用の再編成であるといふのは此の意味に於いてである。

計畫は常に將來に於ける實現を狙ふものである。此の意味に於いて常に變化的であり動的である。併し吾々は國土計畫に於いて靜態的國土計畫と動態的國土計畫との二つの觀念を區別し得る様である。靜態的國土計畫とは其の構想及び構圖に於いて、それ自身の内部に變化又は動態の要因を含まぬもので、云はば大なり小なりに一つの纏つた完全型となつて現はれるものである。一國內のアウトアルキー的な國土計畫や大にしては東亞共榮圈に跨る東亞國土計畫の理想圖などは、いづれも此の性質のものである。

反之、動態的な國土計畫は其の構想及び構圖中に、常に變化又は動態の要因ともなる可きものを含

む計畫であつて、此の意味では常に不完全な、一つに纏つてゐない未完成型となつて現はれて來る。其の構想なり構圖なりには、一部分に必ず均衡を失した、悪く云へば畸形的な存在、云はば部分的異常發達とも見らるる様な局面局部を持つ事になる。所が此の畸形又は異常發達の部分が全體を發達せしめる要因となつて、つまり次の段階になると他の部分の發育又は發展を伴つて、茲に全體として均整のとれた構圖が出来ると云ふワケである。してみれば、動態的國土計畫なるものは靜態的國土計畫への一段階に過ぎないと思はれるかも知れないが、其の實に於いては、此の過程的性質を帯びた動態的國土計畫の方が遙かに重要な意義を持つてゐるのである。此の點に就いて少しく考察してみよう。

二

局部的異常發達の現象は生物に於いて最も顯著に見る例であらう。専門で無いから正しいか否か、若干疑問もあるが、成長期の少青年の體軀が極めて不均衡の發達を示すのはよく見かける所である。徒らに身丈が延びたり、或ひは四肢が延びたりして、全體的には頗る均衡を失した體格を示すものである。之れは精神的方面に於いても同様で一部分には大人になり乍ら、他の方面では全く少年乃至は子供の狀態を脱し切らぬといふ場合がある。或ひは身心兩方面での不均衡、つまり身體丈だけが成人化して思想及び心的方面が之れに伴はぬといふ状態もある。

いづれにせよ、かゝる局部的異常發達はいづれも成長期の現象であつて、發育期にある生物の當然

經過しなければならぬ段階であり、次の完成型又は均衡型への必然的過程であるが、同時にその生物にとつて最も危険期だといふ事が出来る。發育期の少青年が身心双方に於いて最も危険期にあるといふ事は各方面で普ねく認める所である。

此の生物的现象を其のまゝ國家社會の現象に適用する事は出来ないが、國家の發育期も常に危機を藏してゐる。殊に生物的现象は單純に考ふれば、それ自身丈の問題であるが、國家の場合に於いては常に他の諸國家の競合となつて現はれるが故に、國家の成長發育期は常に外的危機にさらされるワケである。換言すれば、此の外的危機を克服する事によつて國家は一段と成長し發育する事になる。此の發育及び成長を廻つて國家の異常發達がある例へば一方には平和的文化に於ける過度の發達、他方には主義的軍備に於ける夥大なる要求がそれである。いづれにせよ、其の一方的發達は國家内部の均衡を阻害するものであるが故に、内的にも危機を藏する事となる。從來、國家の内的危機とせられたものは、全く内的性質のものと思はれてゐたが——そして從來の經過ではそうした考方が正しかつたのかも知れないが——今日に於いては、内的危機は同時に外的危機に連繫してゐると考へられる。つまり國內新體制といふ事は、とりも直さず世界新秩序だといふ意味である。再び個人的生物的例子を擧げて云ふならば、成長期に於ける人間は、自身の身心に危機を藏するが、之は彼が完全孤立人でない限り、同時に對社會的關係に於ける危機でもある。彼は肉體的にも精神的にも懷疑懊惱苦悶誘惑の多い生活を送らねばならぬ。しかし國家の場合と同様、その内外の危機は一

つの根本現象の二面的表現に外ならない。

此の危機又は一種の動搖期が不可避であると共に成長者の必ず經過せねばならぬ過程であるとするれば、かゝる時期は生命體にとつて最も重大なものと云はねばならぬ。殊に生命體乃至は國家にあつては成長以外に生き抜く道が無いとすれば、即ち留まつたり元に戻つたりする事は死そのものであるとするならば、此の危機を切り抜ける事は最も重大事であり、此の重大な意義を持てばこそ、此の時期が危機の危機たる性質を更に深めるのである。

此の成長期に於ける特色は精神的成長よりも肉體的成長が先行するものでは無いかと思はれる。肉體的成熟に連れて精神的成熟は徐々に完成して來るのが普通の様に思はれる。此の點は更に深く考へると兩者を判然と區別する事が出來ないかも知れぬ、何となれば伸びんとする生命力は肉體的な力であると同時に一つの旺盛なる精神力でもあるから、國に就いて云へば之れが新興國家の生命力に比較するものである。しかし時間的前後をつけて云ふならば長大な四肢や剛強な軀幹が廣々した生活領域を得て大いに呼吸し得て後にこそ、それに適はしい内的精神的充實が期待されるものと云ふ事が出來よう。生命力の發展は一つであるが、この意味に於いて身體的形態的發達が先行すると云ふ事が出來よう。

三

成長發展への必然的條件は此の形態的身體的發達を助成し保護する事にある。充分に伸ばして

やる事にある。勿論、部分的な發達がそのまま異常的に固着して了はない爲めに、あらゆる部分の均衡的調整は必要である。しかしゴム風船の様に全體が何處からともなく一時に一緒に伸びるので無く、一部一肢が先づ伸びて行くとするならば此の伸び方に充分な注意を拂はねばならぬ。と云ふのは此の時期に於ける不恰好アンバランスは本質的な畸型では無いから、此の一部的發達はそれを阻止するのでなくして、之れと同様に他の部分の發育を刺戟し以つて均整のとれる様にしてやらねばならぬ。

此の事が、動態的國土計畫に於ける重要な點である。既に述べた様に、國土計畫では國土の均整的編成といふ事に重きを置くが、之れは勿論完成型のものとしてはさうでなければならぬが、國土計畫を必要とする國家生命は發展期にあるものであるから、直ちに此の完成型を目ざして設計する事は許されない。否むしる既に述べた様な理由で、不恰好な發達をその内に盛り込む事が肝要なのである。

國土計畫に於いて自給的な調整を目ざしてゐる事は事實である。例へば食糧生産に就いてもさうであれば、工業分散に就いてもさうである。前者は農業増産農地確保となり、後者は地方的自立工業單位の設定となつて現はれる。併し之れが、それ文だけが窮極の目標なのであらうか。日本海、支那海、南支那海、西太平洋等が吾々の内海又は準内海と觀じ得る將來を吾々は狙つてゐないのであらうか。又吾々は極めて小型の自給經濟體制を内地に完成し乍ら、外地にも同じ型の體制を構成せしめ、以つて幾つかの小型自給經濟の並存型を以つて東亞共榮圈の豫想圖とするのであらうか。同じ事

は國內の生活及び消費規正に就いても云へる。異論があらうとなからうと、非常時體制の下に於いて生活内容は極度に切り下げられてゐる。消費の制限で頗る窮窟になつてゐる。之れでいゝのかと誰しもが反問するであらう。併し此の窮窟な切りつめられた生活丈けが吾々生活の全部であつては助からない。云ひ換へれば之れによつて吾々はより大なる力を蓄へてゐるのである。内に向ける力を外に向ける爲めに斯く苦勞してゐるのである。此の窮窟で不足勝ちな生活丈けで全部であるならば吾々は將來に就いて寸毫も望みがない。吾々が不用のものを捨て、身輕になつてゐる事は大なる飛躍にそなへて力を蓄へてゐるのである。

同様に自給型の國土計畫は内に力を蓄へる行方である。従つて國土計畫の全部が之れで終つて了つてゐたのでは頗る情無いのである。どうしても更に大なる飛躍と發展とを約束する動態的な設計がほしいのである。其の目標は東亞共榮圈に擴がる國土計畫であるが其の前に内地的國土計畫と共榮圈國土計畫とを繋ぐ關係がほしいのである。之れ即ち動態的國土計畫の最も必要な所である。

四

生命體の發育期に於ける畸形的發達と云ふ事を述べた。若し國土計畫の設計に於いて動態化を必要とするすれば、それは具體的には何であらうか。國土計畫を形態的に觀念して空間點及び線とした。是等三つの要素の中、動態的性格を含むのは線である。二、三の例を以つて説明してみよう。

茲で線と云ふのは具體的には最廣義の道路又は交通路である。社會關係とは交通關係だとは吾々のよく云ふ所であるが、交通路——道路は動態的な役目を果す。京濱國道が出来たのはいつ頃であつたか、其の頃幅員の廣い幹線道路の必要は既に豫想されてゐたのであらうが、完成當初には氣持のいゝドライブ路として珍重されたものであつた。所が今日に於いては車輛が輻輳して了つて到底、快的にドライブするワケには行かなくなつてゐる。つまり産業的な重要幹線として設計された當初には其の價値を實現してゐなくとも、それが京濱地帯及び東京、神奈川の發達に連れて之れを促進するの役目を果してゐる。

東京の省線山の手線を考へて見てもさうである。吾々の子供時代には大人が東京近郊の雪景色を見物するのに此の線がいゝと云つてゐたものであるが、之れは勿論山の手線そのものの使命ではなかつたらう。併し明治後期、大正中期の東京の驚く可き膨脹につれて之れが貢獻した所は頗る大であつたらう。

郊外又は新開地に行くとき、とんでもない立派な道路が開設されてゐるのに出逢ふ事がある。こんな土地にどうして之れ程立派な道路が必要かと思はれる態のものであるが、勿論現在の四圍の情況では、子供の球なげや凧上げの場所たる外役に立ちそうもない。併し、何年か後に之れが産業道路として充分の効果を發揮する事になるのであらう。其の頃には附近も大小の工場が立ならんで立派な工場街と發展してゐる事であらう。

斯くの如くして道路や交通路つまり線は國土計畫的な設計に於いて最も動的なエレメントである。中心から見れば正さに之れは觸手である。必要のある所に遠慮なく伸びて行く。たゞ伸びて行く丈けではない。伸びて行く事によつて、之れに觸れた地方や領域を中心體制の中に取り込んで行くのである。北アメリカ大陸横斷鐵道の完成は此の意味でアメリカ經濟社會史上の大きな出事と云つて差支あるまい。鐵道が開設される事によつて其の地方は從來の自主性を喪失して了ふ。善かれ悪かれ中央の所要する様な地方體制に化する事となる。

五

かう云ふ意味で道路建設を含む大規模な土木事業や交通土木事業は頗る意味深いものと云はねばならぬ。茲に所謂動的投資ダイナミック・インヴェストメントと稱し或ひは戰略的投資と稱するものがある。道路事業が地方開發に資する以外に自動車工業を促進する手段となり、獨逸のアウトバーンとフォルクスワーグの關係を見よ、鐵道事業の補助や地方開拓獎勵が鐵道事業惹いては製鋼業の發達を促す。同様に豊富低廉なる電力事業は電力利用を促進すると共に電氣機具工業の振興に資する。つまり或る種類の施設なり事業は之れによつて他の事業なり産業なりの開發進歩を促進する動機となるといふ意味でダイナミックインヴェストメントと云ふのであるが、同じ意味で道路、鐵路、航路、空路並びに之れ等に必要なる諸施設例へば宿驛、港灣、飛行場等の如きは——茲ではつまり線の關係となつてゐるが——之れ等のものはダイナミックの要因を含んでゐると云ふ事が出来るわけである。

之れと類似な事柄は各方面に就いて云ふ事が出来るであらう。農業を機械化する事も單に耕耘や脱穀が機械によつて行はれるといふ事以外に、農民に機械の理法と生活(タクニツクウエ)を教へる事になり、他方面への影響が爲めに促進される事になる。ラジオを普及せしめる事も、電力を低廉にし電気器具を家庭に入れる事も、科學化、工業化へのよき刺戟であり拍車である。その意味で同様にダイナミックの性質を帯したものと云ふ事が出来る。

其處で我國の國土計畫として云ふならば線の設計を中心として動態化を計る可きだと云ふのが本稿の趣旨なのである。内に國防的自給的體制としての國土計畫を立案するのは必要である。併しそれだけで終つてはならぬ事は前述の如くであつて之れに共榮圈的國土計畫へ發展すべき要因を附加しなければならぬ。それには空間及び點は既に與へられてゐるが故に残る所は線の設計に於いて之れを動態化する必要がある。勿論、共榮圈的地理地勢は、日本を中心として考へる時、道路を以つて結ぶ事は不可能である。鐵道も内地對外地の關係では直接的意味が強くない。必要なのは空路と海路であつて、茲に南方海空路の問題が緊急な問題として登場して來る。之れに附帶して諸種交通施設を完備する必要がある。要之、觸手の伸張と、これに要する基點の整備が最も肝要なのである。之れ等線の設計を以つて動態化を狙ふ事に刻下我國國土計畫の重要課題とする所以である。